

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4月から新たな職員で事業が開始し、これまでの理念ではなく今の自分たちのレベルにあった理念を職員全員で決めた。現段階では、地域密着サービスとしての役割までの理念を具体的に作り上げていない。	○	住み慣れた地域で安心して暮らせるよう個々の状態にあった地域との関係性を強化したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもっと身近なものにしようと職員全員で話し合った。	○	日々のサービス提供場面において理念を反映させたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には訪問時に説明したり、家族会で事業所の現状を通して説明している。また地域の人々に理解してもらえよう自治会への加入を進めている。	○	自治会を通じてより多くの住民に理解していただけるよう働きかけたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日のように買い物に出かけたり、散歩をし、近隣の人たちとあいさつを交わすなどしている。また畑仕事に声を掛けていただくことも多く、野菜の話や季節の話など身近な話をしながら交流をしている。	○	さらに日常的に行き来ができるようになりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや文化祭に参加したり、保育所との交流を春、秋に行った。	○	自治会に加入し、さらに地域行事に参加し、地元の人たちと交流していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に還元できるほどの実績もなく、実際に地域に向けて認知症についての啓発活動も行えていない。	○	今後事業所が少しずつ認知症や介護について知識や経験を積み上げ、地域に向けて還元できたらと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の目的について説明し、一緒に作成することで自分たちのケアの質について振り返るきっかけになった。また今後自分たちがどういう点に注意しながら介護を展開していくかという道標になった。	○	外部評価の結果を職員会で報告し、改善に向けて具体的に取り組めるよう全職員で話し合う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、運営状況や事故報告、行事報告等を行い、メンバーから率直な意見やアドバイスをいただくようにしている。また検討事項については次回の会議に経過報告し、一つひとつ積み上げている。	○	外部評価の結果を公表し、質の向上に努める。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会に参加し、交流を図っている。	○	市担当者に現状を知ってもらえるように働きかける。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしている。	○	管理者以外の職員も外部研修に参加する。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、ケースカンファレンスを通して虐待について考えている。	○	管理者以外の職員も外部研修に参加する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学に来ていただき、十分に検討していただく時間を設けている。更に契約時、不安に思っておられることはないかたずね、説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や表情、態度からその思いを察するよう努力している。また不安な様子であれば話を聞くなどしている。また第三者委員の訪問を依頼している。	○ 第三者委員等に利用者が気軽に話ができる環境を整え、出された意見を日々のケアに生かしたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況を電話や家族の訪問時に説明するようにしている。また3か月に1回機関紙を発行し、ホームでの生活を紹介している。金銭については出納帳に記入し、最低年1回身元引受人から預かり金の確認を受ける。	○ 引き続ききめ細かな情報交換ができ、利用者の方の状態を共有できるようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情は財産である」という認識を職員全員が持ち、家族の方に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに心がけている。	○ 家族の方から意見や不満等を安心して出していただけるような機会や仕組みを作り、出された意見や要望を職員会で話し合い、前向きに受けとめ、質の向上に努めたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を月に1回定期的で開催したり、日々のコミュニケーションを通して意見等を聞くようにしている。また年1回自己申告書を提出し、理事長に個人個人の意見が届くような仕組みになっている。	○ 今後も定期的にテーマを決め職員会を行ったり、個別面談を行い、意見を聞いていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	食事や入浴体制を考慮し、勤務時間を変更するなど試みた。	○ 人員に余裕がないため日々の状況に応じた柔軟な体制をとることは困難であるが、可能な限り利用者の生活に合わせたいと考えている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	4月に運営主体が変わり、ほとんどの職員が変わった。利用者へのダメージを最小限にするために可能な限り3月の早い段階から研修に入り、顔なじみの関係が作れるように努力した。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修をなるべく多くの職員が参加できるようにしている。それらの研修報告を復命し、職員がともに学べるように心がけている。また職員が日々不安に思っていることを聞き、その内容について内部研修を行っている。</p>	○	個々のレベルに応じた研修を計画的に取り入れたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>しまね小規模ケア連絡会に参加したり、全国グループホーム協会に加入し、情報収集をしている。</p>	○	市内のグループホームと交流を持ち互いの質の向上に努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常、職員のストレスや悩みを把握するようホームに行くようにしている。</p>	○	休憩時間にきちんと休憩が確保できるよう検討中。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に職員会に参加し、個々の考え方を把握するように努めている。職員の仕事の評価をきちんと示し、モチベーションが上がるように努めている。また職員が健康で働けるよう健康管理に努めている。</p>	○	職員の資格取得に向けた支援。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接を行い、生活状態を把握するよう努めている。可能であれば入所前や利用申し込み時に見学に来ていただき、実際の生活の場を見ていただくように努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接を行い、利用者の生活状態、家族の不安や心配事などを把握するよう努めている。可能であれば入所前や利用申し込み時に見学に来ていただき、実際の生活の場を見ていただくように努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーやMSWからの紹介が多いため「その時」に必要な支援については見極められてからの相談がほとんどである。	○	相談時本人や家族の思いをきちんと聴く姿勢は今後も持ち続けたい。必要であればケアマネや地域包括支援センターと連携をとりながら支援していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるために、事前見学は行っている。他施設からの直接入所であったため、事前に会いに行ったり、入所後にそれまで関わっていた関係者に来ていただくようにした。	○	利用者が安心して利用開始できるように個々に合わせた調整ができるように努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に調理や掃除等をする中でいろいろな知恵や味付けなどアドバイスをもらっている。また利用者が活躍できるような場を作れるように努力している。	○	個々の得意なことを生かすことができるよう環境を整える。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を家族と共有できるよう面会時等に情報交換を行うように努めている。また家族の思いを聴くように努めている。	○	家族との情報交換を引き続き行い、家族の思いが把握できるように努める。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族が一緒に過ごす時間が作れるよう行事参加を促すなどしている。また家族との外出や外泊の機会を大切にしている。年賀状を職員と一緒に作成し、家族や兄弟に出すことができた。	○	利用者が家族と一緒に過ごす時間が作れるように働きかけていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している理美容院を利用している。また近所の店に買い物に行くことで馴染みの人との交流ができています。	○	生活歴を細かく把握することでたくさんの情報を得ることができ、その情報をもとに利用者が大切にしている人や場所が把握できた。引き続き家族や身近な人からの情報をもとに利用者のこれまでの生活を把握していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う人同士だけの会話にならないよう調理などを通して利用者同士が話ができるよう職員が調整役になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	死亡でサービスが終了したケースが1件ある。終了後家族と思い出話などを行い、家族の思いを理解するよう努力した。	○	死亡でサービスが終了となった場合を含め継続的な関わりについて考えていく必要があると思う。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の方に物事を選択してもらうよう働きかけている。利用者のそのときの思いを大切にしている。	○	利用者が今後どのように暮らしていきたいか今後も追求していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスが開始になる際に情報収集を行うが、利用者のケアを追求すればするほど情報が不十分であると痛感した。家族の方に協力を得ながら情報を増やしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの言葉や表情、行動からその時々の状態を把握するよう努めている。	○	利用者が秘めている力や能力にまだまだ気がついていないことが多い。いろいろな場面や行動から職員が見つけ出せるようになり、次につなげたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で気付きを共有し、次のケアにつなげられるよう申し送りやカンファレンス等で話し合っている。	○	カンファレンスに本人、家族が同席したことはないが、なるべく本人、家族の思いが反映できるようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化したときはなるべくその都度カンファレンスを行ったり、家族と情報交換を行い、現状に即した計画を作成するよう努力している。	○	利用者の現状と介護計画がずれることがないようにきちんと日々の情報や気付きを大切にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を職員がいつでも記録できるようにしている。また特に介護計画であがった内容については詳しく記録するようにしている。	○	介護記録を基に介護計画を見直している。しかし、記録がパターン化しつつあるため再度記録についてどうすれば負担なく記録できるか検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院することが理解できず、医師と家族と相談し、グループホームで様子を見ることになった。また別のケースで緊急に入院となったため不安が強く入院が納得できなかったため一度ホームに帰り、利用者の不安に思っていることを解決してから入院した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今後いろいろな場面で地域の人やボランティアの方の協力が必要になってくると思われるため自治会やボランティアの開拓に努めている。消防関係者とは、救急蘇生法講習会を通して協力を得ている。	○	利用者が地域で安心していけるよういろいろな機関と協力していく必要がある。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域で開催される文化活動などの情報を意識する必要があった。	○	今後利用者の状況に応じていろいろなサービスが受けられるよう支援していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に行政担当者が参加されるが、まだ十分な協力関係が築けていない。	○	運営推進会議の担当者だけに限らず行政職員と協力できる関係を作っていく必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する場合は、入所以前のかかりつけ医となっている。定期受診に加え、必要時には家族と相談の上受診をし、家族に受診結果を報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者の主治医が神経内科医であり、受診時相談し、助言をいただいている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、介護職員とともに利用者の健康状態の把握に努めている。また緊急時には電話で連絡を取っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時利用者の情報を医療機関に提供した。また職員が面会に行き、不安を取り除くよう努めた。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に本人、家族の意向を聴き、グループホームでできないことを説明するようにしている。また日々の健康管理や緊急時に対応できるよう職員間で話している。	○	終末期のあり方、重度化した場合の対応について運営方針をきちんと示せるよう話し合いを行っていく必要がある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所内で「できること・できないこと」の見極めは何となくできている程度であり、チームとしての支援体制はできていない。	○	終末期の利用者を支えるためには、職員の一致した思いや力量が必要である。今後チームとして利用者を支えることができるか話し合いを行っていく必要がある。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所の際、関係者と十分に話し合い、情報交換を行うなどで備えた。	○	引き続ききめ細かな情報交換を行い、これまでの生活が継続できるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、職員会や日々の申し送りで十分に注意するよう徹底している。また他者の前で個人の尊厳を損なうような言動や行動はしないように日々気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人に合わせた声掛けや対応をしている。意思表示が困難な利用者に対しても表情や行動から読み取るようにしている。職員が答えを決めず、利用者になるべく選択してもらうように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態に応じた過ごし方ができるように心がけている。職員の押し付けにならないようにしている。	○ 利用者の希望に沿った外出や散歩がしたいが、職員の人数やそのときの他利用者の状況によってすべての利用者の望みをかなえることができない。可能な限り多くの利用者の希望に沿えるようになりたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性の利用者には特に鏡を見ながらクリームを塗ったり、髪型を一緒に整えるように努めている。また出かけるときなど衣類を一緒に選んだり、アドバイスするなどしている。理美容院は馴染みの店に行っている。	○ 入浴後に着る洋服なども本人と一緒に決めるなどもっと決め細やかな対応をしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは基本的には職員が決めているが、決める際には利用者に意見を聞くなどしている。また利用者と一緒に野菜を切ったり、味付けするなど調理に参加していただいている。また盛り付け、片付けもなるべく利用者と一緒にしている。季節に応じて畑の野菜を一緒にとりに行き使うなどしている。	○ 利用者の能力や状態に応じてなるべく多く場面に参加してもらえようようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の飲みたいものを準備したり、好きなおやつが食べられるよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を基本に関わっている。必要な利用者には排泄チェックを行い、トイレでの排尿ができるように見直した。また自分ひとりでトイレで排泄できるようパット等を検討した。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にし、その日に本人に入浴するか決めている。	○	入浴可能な時間帯が職員の勤務時間に合わせたものになっている。利用者が入りたいときに入れるよう柔軟に対応できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の行動や気分の状態に応じて午睡を多くとったりするなど個別に対応している。また夜間トイレが分からなくなる利用者には添い寝をし安心して夜眠れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「役に立ちたい」と思っておられる気持ちを大切に、一人ひとりに応じた役割をお願いしている。また常に感謝の言葉を忘れないようにしている。	○	遠足や新年会を行ったがもっとたくさんの楽しみごとを行ってきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭管理は職員で行っているが、愛用の化粧品などは利用者と一緒に買い物に行き本人が支払うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく天気のいい日に散歩に出掛けたり、買い物の帰りに遠回りするなどなるべく日常的に外出できるように支援している。	○	外出する利用者がやや固定しているところがある。なるべく多くの利用者に外出していただけるようにしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別性の高い外出支援ができるよう利用者が行きたい場所や見たいものなどもっと知ることができるよう関わり方が必要である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けれるようにしている。また利用者に年賀状を出したい人を聴き、一緒に年賀状づくりを試みた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めているが、いつでも面会に来てもらえるように心がけている。また面会時はゆっくり過ごしてもらえるように自室や和室を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行ったり、ケースカンファレンスで身体拘束について日々のケアについて振り返っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けていない。また居室においても利用者自身が鍵を掛けない限り職員は鍵は使用しない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認に心がけている。職員が少ないときは同じ空間で記録したり、必要時は時間外でも見守りを協力して行っている。夜間は1～2時間毎に巡視をしている。	○	利用者の自由を奪うことなく安全を確保できるように工夫していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜間事務所内に保管している。また薬剤はむやみにいろいろな場所に置かず、保管場所を決めている。また利用者にとってどうしたら安全に使えるのか、なぜ危ないのか理由を一つひとつ探り、取り除くようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告をきちんと記録することで職員が共通認識できるようにしている。火災時の避難経路、消火器の使い方など点検した。	○	避難経路等は、日々確認する習慣をつけるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、すべての職員に年1回救急法について勉強会を行った。また吸引器の使い方は数回行い、実際器具を使い研修した。	○	年1回は救急法の研修を行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、緊急避難経路図を基に全職員で点検をした。	○	実際の避難訓練が行政との調整がつかず出来ていない。また地域との協力体制も十分でないため早期に整備する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故報告やヒヤリハット報告の内容を含めリスクについて家族に説明し、理解を得るように努めている。家族会においてもリスクに関して説明し、理解を得るように努めた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段からの観察を大切にし、ちょっとした変化も見逃がさないようにしている。いつもと違うと感じたときはバイタルチェックをするなど健康管理には十分注意をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は個人ごとにファイルし、職員が把握しやすいようにしている。またすぐに見ることが出来るように日々の記録と一緒にカードックスに綴じている。分からないことは看護職員に尋ねるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便チェックを行い、個人に応じた便秘対策を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きは個人の能力に応じた関わり方をしている。口腔ケアと肺炎、口腔機能維持との関係についての勉強会を行い、口腔ケアの重要性について理解している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下状態に応じて食形態、量を変え、安全に必要な栄養が摂取できるように努めている。管理栄養士からのアドバイスを基に献立を作成した。貧血に良い食品について調べ、献立に入れるようにしている。	○	嚥下機能のアセスメント能力
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成した。また食中毒や感染性胃腸炎について勉強会を行った。手指の清潔やまな板の消毒を徹底している。利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。	○	マニュアルの見直し
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎晩消毒、乾燥を行っている。食材は毎日買い物に出かけ、なるべく新鮮なものを使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には手作りの看板を作り、なじみやすいように心がけた。また広い空間をなるべく温かみのある空間に使用と写真を貼ったり、花を飾るなどしている。	○	看板は作ったが入り口が分かりにくい。もっと分かりやすく、親しみやすく工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾ったり、手作りのものを飾るようにしている。また雛飾り、七夕飾りなど季節に応じたものを取り入れるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増やしたり、家具の配置を変える等、ほっとできる場所づくりに心がけた。また和室を開放し、気のあった利用者同士がゆっくりのんびり過ごせるようにした。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはなるべく馴染みのものを準備してもらうようしている。また利用者と一緒に使いやすいように家具の配置を考えるようしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食後に換気をするように取り決めている。またゴミなど悪臭の原因になるものはすぐに捨てるようしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理台は利用者に合わせて高さのテーブルを準備している。トイレに手すりを取り付けトイレでの排泄が安全に出来るようにした。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前に分かりやすく名前を大きく表示したり、夜間明かりをつけるなどしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に植木鉢やプランターを置き、利用者と一緒に花の世話をしたり見て楽しんでいる。また近くに畑があり、一緒に野菜づくりをしている。夏には洗濯物をベランダに干すなどしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度の4月から事業を開始し、土台づくりに力を入れた。「あたりまえの生活とは何か」「自分だったらどんな生活がしたいか」など職員全員で意見を出し合った。その結果、入浴体制を変えたり、排泄環境について考えることができた。また居室に閉じ込められるような生活をしてきた利用者を他利用者となるべく一緒な空間で自由に過ごしてもらえよう、これまでの対応を見直すことができた。更に利用者と時間を共有することで新しい発見をすることも多く、それを日々のケアに活かすことができるよう職員間の情報交換をきちんとするように努めている。また日常生活の中で利用者自身に物事を選択してもらえるような関わり方ができるよう心がけている。